

加藤勝信 厚生労働大臣表敬訪問のご報告

長尾由実子
医学部臓器相関情報講座



9月21日午後1時45分、堀江 裕先生（島根県済生会江津総合病院名誉院長）と近藤雅雄先生（全国ポルフィリン代謝障害患者の会代表、東京都市大学名誉教授）と私（長尾由実子 本学医学部臓器相関情報講座）の3名で加藤勝信厚生労働大臣を表敬訪問いたしました。その後、午後3時から衆議院議員会館の事務所で大臣秘書の方と約1時間半にわたってお話させていただきました。訪問日は9月28日の衆院解散前のちょうど1週間前でしたので、慌ただしい状況の中での面談となりました。

加藤大臣は、2015年に「一億総活躍担当、拉致問題担当、女性活躍担当、再チャレンジ担当、国土強靱化担当、内閣府特命担当（少子化対策および男女共同参画）大臣」に、2017年8月に「厚生労働大臣 働き方改革・拉致問題担当」に就任されています。

肝炎ウイルスは肝臓以外の臓器にも障害を引き起こすことが知られており、こうした「肝外病変」を示す口腔粘膜の疾患に「扁平苔癬（へんぺいたいせん）」があります。肝炎ウイルスが口腔癌や扁平苔癬を引き起こすことは、約20年前に私が初めて報告しました。一方、晩発性皮膚ポルフィリン症も肝炎ウイルスの肝外病変の1つとされています。近藤先生は、ポルフィリン症研究の権威で、全国ポルフィリン代謝障害友の会の代表をされています。ポルフィリン症は、2015年に国の医療費助成の対象となる「指定難病」に認められました。堀江先生は2年前より東京都内で専門外来を開設されています。

今回の表敬訪問では私から加藤大臣に、自身が行っている口腔と肝臓に関する研究と新たな活動を紹介させていただきました。わが国における未治療の肝炎ウイルス感染者を効率的に発見するには歯科医師がゲートキーパー（門番）の役目を担うことが重要であり、このことは医療経済の視点からも意義があること、既に複数地域で前向き研究を開始していることを今までの研究概要をまとめた冊子と今年発刊した書籍『イチからわかる！歯科医師が知っておきたい肝疾患のキホン』（南山堂）をお渡しして説明しました（写真）。同書籍は、国内で初めて歯科医療職に対して肝臓の病態を解説したものです。



加藤大臣より、「口を診ると肝臓の病気が見つかる!?'「ぜひ、その取り組みを宣伝しておきましょう。頑張ってください」と激励の言葉をいただきました。

10月に行われた衆院選の結果を受け、安倍自民党総裁が内閣総理大臣に再選され、加藤大臣も再任されました。加藤大臣には、肝外病変について関心を持っていただきましたので、佐賀大学のその後の活動についてまた報告させていただきたいと思っております。